

# ザ・チーム

## エスプールのプラス

人材派遣会社エスプールの子会社エスプールプラス（東京・千代田）は契約先の企業が雇う知的・精神障害者に農作業の場を提供している。障害者は企業から安定した収入を得られ、企業は仕事のミスマッチを防ぎつつ障害者の雇用を義務付ける法定雇用率を守る仕組みだ。新しい事業モデルの確立へ一丸で挑む。

### 豪雪被害にめげず

障害者が働くのは関東地方と愛知県に計10カ所ある「わーくはびねす農園」で、計約40種類の野菜を育てている。収穫した野菜は障害者を雇う企業が食堂で使ったり社員に配ったりして、福利厚生に利用している。知的・精神障害者の就労の場として農園を貸し出す形で、身体障害者に比べ企業の雇用が遅れているという知的・精神障害者の就業機会を増やすのが狙いだ。陣頭指揮を執る社長の和田一紀さん（42）は2011年、知人の紹介で和田さんを知ったエスプール社長の浦上壮平さんからの電話を受けた。「障害者雇用支援サービスの責任者を探している。一度農園を見に来ないか」。同

# 農園で結ぶ障害者と企業



障害者の就労と企業の法定雇用率達成という双方のニーズに応えようと張り切るメンバー（後列左から池本さん、和田さん、大橋さん、前列左から大塚さん、岡本さん、星田さん）

### 「働きたい」思い届ける

社は新規事業として農業と障害者雇用を組み合わせたサービスを立ち上げたところ。米ハウワイでフリーペーパーを発売する会社からの転職を考え、残ったのは全6棟のうち2棟だけ。契約先を回り頭を悩ませた。当初は飲食店向けの野菜栽培を想定していたが、営業先の言葉で「福利用生と関連付ければ様々な業種に受け入れられる」と現業で13年には上場企業とも契約し、農園で働く障害者は40人程度に増えた。同年4月には、和田さんが以前国内で勤めていた会社の同僚のついでに執行役員の大橋王二さん（36）を営業責任者に迎える



農園では企業と雇用契約を結んだ障害者が農作物を育てる

## 雇用主・土地の確保 泥臭く

18年4月の法定雇用率引き上げで企業は対応を迫られている。やりがいと自立を提供する雇用支援のニーズは高まっており「企業と障害者の懸け橋になりたい」とメンバーは口をそろえる。19年には障害者の受け入れ数を1千人以上に増やす計画だ。（吉田楓）

は「行き当たりばったりの仕組みを整理整頓すべきだ」と進言。16年にそれまで曖昧だったKPI（重要業績評価指標）を設定し直した。営業と連携しながら、障害者向けの説明会や体験実習の効率を高めている。

**経済的自立を支援**  
現在10カ所ある農園は14年まで2カ所しかなかった。企業と働き手の双方の需要増に対応し農園を泥臭く開拓するのが新農園開発室長の池本峰雄さん（37）だ。農園は7千平方メートル以上の面積が必要で、不動産会社が情報を持っていないことも多い。賃料や交通の便などを考慮しながら日々車を走らせ地主に声をかけ続ける。

和田さんは池本さんを「突進力は誰にも負けない」と評す。例えば16年11月に開いた千葉県船橋市の農園は、地主2世代にわたって土地の貸し出しを断られ続けた。それでも池本さんは「農園で働

企業に雇用されていない障害者は福祉事業所などで働くことがあるが、収入は工賃と評して月1万〜2万円程度しかもらえない。わーくはびねす農園は働き手の9割が知的・精神障害者だ。企業と雇用契約を結ぶため給料は月10万円以上で、障害者手当と合わせて最大月17万〜18万円程度を手にするという。現在はSMB C日興証券など約160社と契約し、約850人が農園で働く。

18年4月の法定雇用率引き上げで企業は対応を迫られている。やりがいと自立を提供する雇用支援のニーズは高まっており「企業と障害者の懸け橋になりたい」とメンバーは口をそろえる。19年には障害者の受け入れ数を1千人以上に増やす計画だ。（吉田楓）